

人口と世帯(平成20年1月31日現在)

男 170,894(26)
女 175,673(3)
計 346,567(23)
世帯 139,375(59)

* ()内は前月比

紙 上 美 術 館



高橋常雄《春雪榛名山》 たかはし つねお・しゅんせつはるなさん

(高崎市タワー美術館蔵)

連なる峰から山すそまでが雪に輝く雄大な榛名山の姿は、常雄の心に残る、豊かな自然に抱かれた遠い日の情景である。雪面をわたって下りてくる風は冷たいが、春の香りをほのかに感じさせるのは、榛名山を描くことが心の帰郷を意味していたためかもしれない。こよなく愛した冬の山容を、丹念に色を重ねた独自の色彩で表現した、高橋常雄の代表作である。

* 本作品は、開催中の展覧会「ようこそ おもしろ美術館！日本画で国語・算数・理科・社会」で展示されています。

編集後記

市民ミュージカル「フェアリー」。
何度か練習の取材に訪れていた。練習のときには、ぎこちないそぶりを見せていた出演者だったが、本番では見事に演技きった。その出演者をまとめ上げた小嶋さんとスタッフは、舞台のブロであり、学ばべき点が多くあった。鳴り止まない拍手とともに練習風景が思い出され、目頭が熱くなった。あらためて、大きな拍手を送りたい。(た)

高崎♥家族の物語



今月の家族 父・中村仁太郎さん (常盤町)
子・中村純也さん (常盤町)
孫・中村 翔さん (常盤町)

第49話「注染」

「地域の祭りには、やっぱり地域で染めた手ぬぐい」。純也さんは屈託のない笑顔でこう話す。中村さんのお宅は、明治30年から続く染物工場。県内で唯一「注染」と呼ばれる伝統技法で手ぬぐいを染めている。型染めの一種で、柄の部分に染料を注ぐこの技法、表裏とも布地を染め抜き、印刷ではちょっと難しい「何とも言えない味」が出る。注染の手ぬぐい、近ごろではインテリアとしても人気があるのだとか。「文化だから。火を絶やさずつなげていきたい」。家族が紡ぐ伝統は、地域の文化を育んでいる。

Takasaki Family #49

